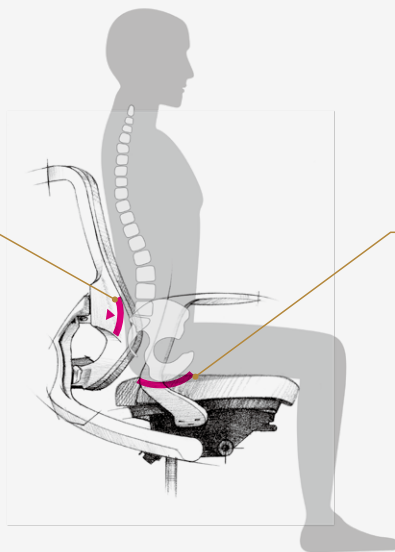


CONCEPT
02骨盤を支えて
最適姿勢を保持背もたれで骨盤の
上部を支える座面で骨盤の
下部を包み込む

人にとって理想の姿勢は立っている時のように、背骨がゆるやかなS字カーブを描いている状態と言われています。座るとS字カーブがくずれやすいため猫背になりがちです。そのS字カーブを保つため従来のチェアの背もたれは、さまざまな方向に動いて不安定な腰椎を中心に支えていました。そこで「セリフト」は腰椎ではなく、上半身の土台となる骨盤に着目しました。背もたれと座面の形状に工夫を凝らして骨盤の上下を優しくホールドすることで、立った状態の「理想の姿勢」を保持しやすいチェアに仕上げました。

直立姿勢



前傾姿勢



骨盤(ペルビク)を中心に姿勢をサポートする背もたれと座面設計

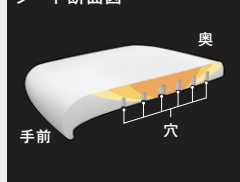
セリフトは背もたれと座面の両方で姿勢の要になる骨盤をサポート。背にもたれた姿勢でも、仕事によく見られる前傾姿勢でも骨盤をサポートするため最適姿勢を保持できます。



ペルビクランバーサポート

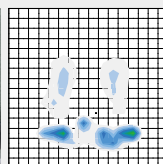
セリフトの背もたれはペルビク(骨盤)を中心にランバー(腰椎)もサポート。これにより、作業姿勢でもリクライニング姿勢でも上半身が安定して疲れを軽減します。ペルビクランバーサポートを装着することでより積極的なサポート感を得られます。サポート力は強弱の2段階で調節できます。

シート断面図

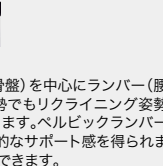


アンカーフィットシート

セリフトの座面には適切な箇所にも適度な大きさや数の穴が施されており、お尻周辺と太もも周辺の沈み込み量が調整され、骨盤下部を適度にホールドして骨盤の前ずれを防ぎ、快適な体圧分散を実現しました。



骨盤上部に荷重がかかっていることがわかります。



骨盤が適正な位置で止まっています。

共同開発者



国立大学法人 富山大学
芸術文化学部
河原 雅典 教授

博士(芸術工学) / 九州芸術工科大学
研究テーマは「民具の人間工学的研究」「身体技法の研究」「人間工学、労働学に基づく製品の研究開発」等。人間工学をもとにした開発事例多数。

インタビュー

伝統的な民具の人間工学的な知恵をワークチェアに応用。骨盤をしっかりと支え、快適にデスクワークができます。



背負梯子

私の研究テーマのひとつが「背負梯子」という伝統的な人力運搬具です。「背負運搬」には「腰椎に荷重をかける道具」と「骨盤に荷重をかける道具」がありますが、骨盤に荷重をかけるほうが背負いやすく身体も楽です。この構造的な理論を椅子に応用し、骨盤をサポートしながら理想の姿勢を保持できる「セリフト」を共同開発しました。前傾姿勢時でも骨盤を支えて疲れにくく、上半身の自由度が高いために作業がしやすい。まさに理想の一脚です。

ワーク
システムデスク
システムクロスブース
ローテーション

ワークチェア

ミーティング
チェアミーティング
テーブルオフィス
ラウンジプレゼンテーション
機器・黒板

収納家具

書庫・
キャビネット

ロッカー

役員用家具

応用家具

コピー
チェア

カウンター

金庫

防災セキュリティ
用品

アクセサリ

間仕切り・
建材ラック・
工場備品福祉施設用
家具

学校用家具

店舗用家具